

ことはじめからのお知らせ

私たちが開催しているワークショップが、2021年版ものづくり白書（経済産業省・厚生労働省・文部科学省の3省で共同執筆）に掲載されました。コラム 伝統文化親子教室事業

「一宮城の手すき和紙体験教室（東北工芸ことはじめ（宮城県））」という見出しで紹介されています。

令和3年度文化庁伝統文化親子教室事業

宮城の手すき和紙体験教室

コラム

伝統文化親子教室事業

一宮城の手すき和紙体験教室（東北工芸ことはじめ（宮城県））一
宮城の手すき和紙体験教室では、地域に伝わる柳生和紙の技法を受け継ぐ手すき和紙の体験を行っている。

手すき和紙の伝統を正確に伝えるため、教室の最初に、日本の手すき和紙の歴史・技術・原料・道具等についての学習を行うとともに、原料となるコウゾとトロロアオイ畑の見学も行い、その後、工房で流しすきをして和紙を制作する体験を行っている。

また、教室の最終回には、各自がすいた和紙を使用して、ブックカバーの制作を行うことで、和紙が現代の生活にも活かせることを実感し、親しみを深められる内容としている。



写真：流しすきに取り組む様子



とつほく こうけい ことしまめ

「東北工芸ことはじめ」で大切にしていること

- ・ものづくりの経験や学びを親子で共有すること
- ・本物に出会い、触れる機会をつくること
- ・日々の暮らしの中に工芸の新たな居場所を見つけること

東北工芸ことはじめ

〒984-0075 仙台市若林区清水小路 6-1

東日本不動産仙台ファーストビル 1F

MAIL | ws@cotohajime.jp

URL | <https://cotohajime.jp/>



最新情報は、東北工芸ことはじめ から
@cotohajime

図解

手すき和紙工房 潮紙

「流しすき」の道具に触れる

「流しすき」の和紙にはタテ目とヨコ目があります。これは、紙をすく際に、簀桁（すけた）を前後と左右に動かすからです。

手すき和紙の世界でも職人不足、後継者不足が深刻です。しかし、減っているのは紙すき職人だけではありません。「流しすき」で使う簀桁（すけた）の製造者も減っていて、今では日本中探しても数名と言われています。ですから、道具自体が貴重なものですし、その簀桁（すけた）を使う「流しすき」体験が出来るとしたら、それはとても貴重な体験と言えるのではないのでしょうか。



トロロアオイの葉っぱ
トロロアオイ



トロロアオイの花



トロロアオイ畑

コウゾ畑

原料のお話

和紙の原料はコウゾです。コウゾの枝の皮の部分のみ使います。一方、洋紙は皮だけでなく幹も使います。コウゾは多年性植物で、刈り取った後は根っこに近い茎の部分が残し、春には新芽が出てきます。

一般的に、和紙の原料として使われるのは、コウゾのほかにミツマタ、ガンピ、竹などありますが、ユネスコの無形文化遺産に登録されている和紙は、全て国産のコウゾのみを原料としています。

和紙をすく時には「トロロアオイ」という植物の根っこを潰して出てくるネリ（粘剤）を水に混ぜます。

トロロアオイは毎年5月上旬ごろに種をまくと9月上旬ごろに淡い黄色の花を咲かせます。

コウゾ

コウゾの葉っぱ



コウゾ畑

